

## 1. 本園の教育目標

- ・あいさつや返事がきちんとと言える子に
- ・きまりややくそくが守れる子に
- ・おもいやりの心と人に親切にできる子に
- ・感じ感動する豊かな心の子に
- ・自分で考え実現できる子に

## 2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

本年度は、当園のモットーである「大切な時だから、一人ひとりが大切だから。」を更に磨き、改善していくことを目指す。あらゆる方面での子どもたちの健やかな成長を促すため、以下の点に重点を置いて保育・教育活動を展開する。

## ①運動あそびの充実

子どもたちの基礎的な運動能力や体力の向上を目的として、日常的な運動あそびを計画的に取り入れる。戸外あそびやサーキット運動など、年齢や発達に応じた活動を通じて、楽しみながら体を動かす習慣を育てていく。

## ②英会話活動の推進

グローバルな視点を育む一環として、英語に親しむ時間を増やす。歌やゲーム、簡単な会話表現を通して、英語に対する興味・関心を高め、言語への好奇心を育てる。

## ③食育活動の深化

食への関心を高め、食べ物の大切さを理解することを目指して、野菜の栽培、食材に触れる体験、クッキング保育を取り入れる。食を通して感謝の気持ちや健康への意識を育て、生活習慣の基礎づくりに取り組む。

## ④花や植物の栽培活動

自然に触れる機会を増やすため、園内での花や植物の栽培を通して、季節の移り変わりや命の大切さを感じられるような活動を行う。水やりや観察を通じて、責任感や思いやりの心を育てる。

## 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

| 評価項目            | 評価 | 取り組み状況                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|-----------------|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| カリキュラムを見直し改善を図る | A  | <ul style="list-style-type: none"><li>・イギリス人のネイティブスピーカーを英語講師として招き、英語レッスンを実施する。</li><li>・身体を動かしながら楽しく英語を学ぶことで、恥ずかしがりやさんでも堂々とした振る舞いを身につける。</li><li>・健康運動実践指導者資格を有する講師により園児たちに楽しみながら身体の使い方、動かし方等運動の動作を身につけさせる。</li><li>・体育指導を通して身体の柔軟性、筋力、瞬発力等を養い、体力向上や怪我の防止につなげる。</li></ul> |

|                       |   |                                                                                                                                                                                                                                                              |
|-----------------------|---|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 教育の質向上のために、園内研修を充実させる | B | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学期ごとに園内保育技術研究会を実施。抽出されたクラスの保育活動（リトミックや器楽等の音楽指導等）を全教員で参観し、良かった点や、改善点等を話し合い、保育技術向上に役立てる。</li> </ul>                                                                                                                    |
| 保育の計画性                | B | <ul style="list-style-type: none"> <li>・園の教育方針、教育目標、年間目標に基づき教育課程を編成し、年度始めに職員会議にて共通理解を行う。</li> <li>・職員会議を週に1回、主任会議、学年会議を適宜行い、教育計画を実践する。</li> </ul>                                                                                                            |
| 保育のあり方、子どもへの対応        | A | <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりの発達、特性を職員会議で報告、情報共有し、全教員が共通理解の上、子どもの実態に合わせた保育、援助を行う。</li> <li>・芝生園庭や園庭に整備したビオトープ、ちびっこ農園を活用し、思いきり走り、飛び、更には様々な動植物に触れ心身ともに限りない成長をめざす。</li> <li>・教職員相互にこまめな報連相、連携し、子ども一人ひとりの幼児理解に努め、チーム保育を遂行することで同僚性を育む。</li> </ul> |
| 保護者への対応               | A | <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援の必要な子どもに関しては発達センターや保護者と連携し、情報を共有し、日々の保育に役立てる。</li> <li>・園の様子を園だより（週だより、月だより）やHP、インスタグラムで定期的に発信する。また担任との連絡帳での対応の他、5月の個人面談や保護者の希望により常時面談や保育を見学する機会を設け理解と関わりを深める。</li> </ul>                                        |
| 地域や社会との関わり            | B | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の幼保小連絡会にて連携を行い、小学校就学に向けた情報交換や小学校への参観会を行う。</li> <li>・自己啓発の小冊子を用いた朝礼で教職員自らの考えや理想、目標を発表し合い、自己実現や人間性の向上に役立てる。</li> </ul>                                                                                               |

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

#### 4. 総合的な評価結果

| 評価 | 理由                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| B  | <p>本年度、重点的に取り組んできた課題については、園全体で意識を共有しながら実践を重ねた結果、おおむね目標に対して一定の成果をあげることができた。しかしながら、活動の精度や質においては、まだまだ課題が残っていると感じている。</p> <p>日々の取り組みの中で見えてきた改善点や、もっと工夫できる余地をひとつひとつ丁寧に見直し、それを教職員間で共有し、これからさらに内容をブラッシュアップしていく必要がある。私たちの園の持つポテンシャルや、子どもたちの可能性はこの程度にとどまるものではなく、より高い質の教育・保育を実現できる力があると確信している。</p> <p>今後も、教職員が一丸となって試行錯誤を重ねながら、園の力を最大限に発揮できるよう、努力を惜しまず取り組んでいきたい。</p> |

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

#### 5. 今後取り組む課題

| 課題                      | 具体的な取り組み方法                                                                                         |
|-------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 活動の「ねらい」と「評価」の明確化       | 各活動の目的や期待する子どもの姿を教職員間で共有し、それに基づいた評価や振り返りを行う体制を強化する。子どもの姿に即した柔軟な対応と改善に取り組む。                         |
| 教職員間の連携と保育の質の均一化        | 各保育者による差が出やすい場面も見られるため、共通理解と足並みのそろった取り組みができるよう、定期的な話し合いや実践の共有を通して、保育の一貫性を高める。                      |
| 記録・観察の充実と活用             | 子どもの変化や成長を丁寧に記録し、それを次の活動や保護者との信頼関係構築につなげる。                                                         |
| 保護者との連携のさらなる強化          | 家庭との連携は子どもの発達支援に欠かせないため、園での様子や活動の意図を丁寧に伝え、保護者との相互理解を深める。                                           |
| 活動の質の深化（英会話・運動・食育・栽培など） | それぞれの活動が「遊び」や「生活」と自然につながるように構成していく研究や工夫をする。                                                        |
| 子ども主体の活動への取り組み          | 小学校進学へ向け、今まで通り保育者主導の活動を大切にしつつ、子どもが主体的に関わる時間や選択肢がある保育の部分を増やしていく。活動の中で「自分で考えて行動する力」を育む機会を意識的に増やしていく。 |
| 安全管理                    | 大型総合遊具の見守り体制の強化。事故の防止に向け遊具の安全な使い方に関する園児への指導。事故時の迅速かつ正確な情報共有の徹底。                                    |

## 6. 学校関係者評価委員会の評価

園での取り組み（運動あそび、英会話、食育や栽培など）は年々充実しており、子どもたちが楽しみながら様々な経験を積んでいる様子をおたよりやInstagramで発信してくださったり、家庭でも子どもが嬉しそうに話してくれているので、高く評価しております。そうした日々の積み重ねが、子どもたちの自信や成長につながっていると感じ、保護者として大変嬉しく思います。

今年度もネイティブ講師を招いた英語活動は、子どもたちにとって楽しく有意義な時間となっていました。外国人との交流を通じて言葉が通じる喜びを感じ、自発的に英語の歌を口ずさんだり、英語にさらに関心を持つ子どもも増えました。英語教室に通いたいという声が出るなど、興味が継続的な学びへとつながっていることは大きな成果です。

一方で、英語表現の定着には時間がかかるため、日常の保育の中で簡単な英語を繰り返し使うなど、より生活に根付いた形での活用が今後の課題と感じます。

体操指導についても、子どもたちのはきはきとした返事や元気な動きが増え、心身ともに良い変化が見られました。放課後に保護者へ嬉しそうに披露する姿も多く、楽しんで参加していることがうかがえます。

ただし、個々の体力や運動スキルに差があるため、子どもに応じた声かけや無理のない指導も今後の工夫点と考えます。また、家庭で簡単にできる運動やストレッチの紹介があれば、保護者としてもより関わりやすくなります。

今後も子どもたちの興味や成長につながる取り組みの継続・発展を期待しております。

私たち保護者は、当園がこれからもさらに成長し、よりよい保育環境を目指して努力を続けてくださることを心から応援しています。これからも園と家庭が手を取り合い、子どもたちの健やかな育ちを支えていけることを願っています。